

図書館だより

1月図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

○印 休館日 月曜日・祝日(15日)
月末館内整理日(31日)
年始休館日(1日～5日)

日をうけて寂たる寒の扉かな
蛇笏

寒の内は、小寒・大寒の候の総称で、寒の入り(小寒)から寒明(節分)まで約三十日間を言う。ことに大寒に入ると、寒気がもつとも厳しい時節とされる。寒・寒中。寒に入って四日目を寒四郎、九日目を寒九と言う。
(『最新俳句歳時記』より)



2011年の新刊案内

* 一般図書

- 情報力をつける 森谷正規
「超」速読法 佐藤泰正
ブッダその人へ 立松和平
希望の扉を開く ヨハネ・パウロ二世

日本人の出現 諏訪春雄
上海 ハリエット・サージエント
美智子皇后から雅子さまへ

気軽に出かけるはじめての海外旅行 永岡書店
日本いまだ独立せず 日高義樹
資本主義の未来 レスター・C・サロー

ヨーロッパ人の奇妙なしぐさ ピーター・コレット
カラオケ・アニメが世界をめぐる 白幡洋三郎

年金の誤算 日本経済新聞社
せめてあのとき一言でも 鎌田慧
生物学個人授業 岡田節人

いのち 柳田邦男
ガンで死ぬのも悪くない 諏訪邦夫

日本の布で楽しむ手芸 日本放送出版協会
100の、なべ料理 文化出版局

日本がアジアで敗れる日 伴武澄
庭木の剪定コツとタブー 日本造園組合連合会

「映画の星」をめざして 佐藤まさあき
四季の撮影術 学研

童話の天体 阪田寛夫
わが師、桂文楽 柳家小満ん
英語っぽくしゃべる英語 森まりえ

ホームステイのフランス語 阿南婦美代
歌の彩事記 馬場あき子
関ヶ原連判状 安部竜太郎

眠たい奴ら 大沢在昌

寛永の楔 加来耕三
鬼道の女王卑弥呼 上・下 黒岩重吾

不機嫌な果実 林真理子
ラブ&ポップ 村上竜
心の海へ 沢地久枝

人生途中対談 東海林さだお
街のはなし 吉村昭
酒国 莫言

マンゴー通り、ときどきさよなら サンドラ・シスネロス
ユルスナールの靴 須賀敦子
戸外の日記 アニー・エルノー

南国に日は落ちて マヌエル・プイグ
外一九三冊

世界の都市大探検
子どもが楽しむ造形スクランブル
ふしぎいっぱい毒をもつ動物
シベリア博物館

のりものみつけた!
モモイロハートそのこりゅう
アーモンド入りチョココレートのワルツ

のんびりくらげ
カネゴンの日だまり
9月の出会い

おしゃべりポルターガイスト
こいぬとこねこは愉快な仲間
大きな木のおくりもの
みずうみにきえた村
ママったらわたしのなまえを

しらないの 外九十冊

心の健康シリーズ(45)

困った行動は親の関心を引くためエスカレートする

困った行動の第二段階「挑戦的行動」で大部分の親や教師は子どもの反抗的態度に気づき、そのゆがんだ心を直すべく、学校や家庭で話し合いますが、「反抗期だから」、「わがままだから」など、子どもの行為を深く見詰めようとせず、また子どもの存在を認め、理解しようとしないうと、「困った行動」は次の段階へと進みます。

第三段階は、「挑戦」がうまく行かないと「復讐」します。子どもの非行や自殺志望は親や先生への「復讐」であることがありま

罪を犯したり、不道徳な行為をして、自分も傷つくと同時に、親や先生を困らせることによって復讐しようとしてます。

例えば、万引きなど不道徳な行為をするのは、大抵復讐のためです。万引きをすれば、自分が傷つくことはよく知っています。それにもかかわらず行うのは、それによって、親が一番傷つくことを知っているからです。

子どもが補導されれば、親も先生も、びっくり仰天し、非常に傷つくとともに、今さらながらに我が子を

見つめなおします。

この復讐には、万引き等、反社会的行為ばかりでなく、登校拒否、たばこ、シンナーなどさまざまです。親は忙しく、子どもと接する時間

もなく、関心を向けているひまもない。子どものほうでは、もっと自分に注目して欲しいのにそうしてくれないから「困った行動」をどんどんエスカレートさせていくのです。

このように親への復讐的行為も、親の気持ちを自分に向けさせたいばかりの行為で根本的には親を困らせ苦しめようなどという気持はないのです。結果的には親や先生を苦しめていますが無意識的に行われているのです。

ですから、このような子どもへの対応は、まず、自分が苦しめられ、傷ついたことを絶対子どもに見せないことです。もし、グチを言ったり、子どもを非難したりすると、子どもは無意識的に満足してしまい、そのまま行動を続けるようになります。

逆に傷ついたことをみせなければ、子どもは復讐の効果が無いと無意識的にさとおり、その行動を止めることは十分に考えられます。

また、第四段階まで発展させないために大切なことは、罰を与えないことです。非行に走ったりすると親はどうしても罰を与えようとしてしまいます。しかし、自分の居場所を見つけてよ

うとして親の関心を引くための行為なのに罰を与えれば、ますます、子どもは居場所をなくし、困った行動をエスカレートさせてしまいます。それより、親の愛情を示し、子どもが親をふり向くようにすることが大切で、この段階になれば親だけではむずかしく、専門家に相談することが必要でしょう。